

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスセンター ケヤキ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日 ～ 令和7年 1月 27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 14日 ～ 令和7年 1月 27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい者支援施設が母体となる為、強度行動障害を含めた対応が可能。	強度行動障害を含めた知的重度利用児の対応にあたっての相談に対しては、現状に関係なく相談の受付、対応できる方法を検討しています。	早い段階からの相談の受付、児童発達支援センター等との連携を重視、適切に福祉サービスが利用できるよう今後も取り組んでいきます。
2	小学生から高校生まで幅広く対応する事で成長過程を把握。適切な対応が可能となる。	年代に関係なく参加できる集団活動や行事などを開催、全体が一体となり進める事が出来るよう配慮しています。	集団活動や行事など選択肢を増やし様々な環境の中で遊びを通し学べる環境を整えていきます。
3	広々とした活動スペースで年代に合った取り組み、また、個々に合わせた空間が作りやすい。	個室以外、死角がなく、どこにいても全体が見渡せるように配置。また、室内でも走り回れる空間を設定している。	利用児童に合わせた室内のレイアウト変更をしながら、楽しく学べる環境を整えられるよう今後も取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内での活動に関しては、現職員数でも十分対応出来ているが、野外活動など安全面や目的を考えた時に対応が難しい場合も多く選択肢が少ない。	人員配置に関しては安全、支援の充実の観点から職員数を増員して対応しているが、施設外の活動に関しては安全対策がしっかりと実施できないと判断している。男子職員が少ない。	長期学校休業日期間に地域の社会資源を利用した取り組みを個別、小集団で実施する。その都度、安全面、療育課題、利用児の満足度など振り返り、次の取組に繋げる。
2	幅広い年齢、様々な障害をもった利用児を受け入れる事で、地域との結びつきの部分に関しての対応が遅れていると感じる。	地域の児童館との繋がりに関して1事業所として、どう対応して良いかわからない。現実的に難しいと感じる。	現行通り地域の公園等へ散歩に出かけ地域との交流を図りながら、今後、他事業所の取り組み等も参考にしながら段階的に取り組めたらと考えている。
3	ペアレントトレーニングに対する知識不足。また、研修案内等に積極的ではなかった。	研修機会が少ない。複数名の参加が条件となる研修には参加できない。	本体施設とも協力しながら、研修参加の機会を設け知識を身に付け保護者支援に繋げていく。